

指定管理者制度導入施設 年度評価シート

評価年度

令和4年度

1 基本情報

公の施設名	橋本駅北口第1自動車駐車場他5施設
指定管理者名	ギオン・野村不動産パートナーズ・富士ダイナミクス グループ (構成団体:株式会社ギオン、野村不動産パートナーズ株式会社、株式会社富士ダイナミクス)
指定期間	令和2年4月1日～令和5年3月31日
施設設置条例	相模原市営自動車駐車場条例
施設の設置目的	中心市街地の道路交通の円滑化を図り、市民の利便に資するとともに、都市機能の維持及び増進に寄与するため。
施設概要	橋本駅北口第1自動車駐車場、橋本駅北口第2自動車駐車場、相模原駅自動車駐車場 相模大野立体駐車場、小田急相模原駅自動車駐車場、相模大野駅西側自動車駐車場
施設所管課	都市建設局 土木部 路政課

2 管理実績

項目(単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
利用台数合計(台)	2,185,415	1,894,183	1,531,907	1,642,492	1,664,760
利用料金合計(円)	975,538,600	859,166,080	654,091,945	728,295,500	721,996,750
修正回転率(時間)	2.97	2.82	1.97	2.21	2.14

3 成果指標の達成度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
C	新型コロナウイルス感染症の影響で利用台数が減少しているものと考えらるが、昨年度より達成率が増加している点は評価する。 しかしながら、達成度が80%以上90%未満であることから、C評価とするもの。

指標	
指標名(単位)	自動車駐車場の年間利用台数(二輪自動車を除く)(台)
指標式と指標の説明	年間利用台数を目標として運営状況を確認する

項目(単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値(台)	2,207,000	2,209,000	2,046,452	2,046,452	2,046,452
実績値(台)	2,185,415	1,894,199	1,531,907	1,642,492	1,664,760
達成度(%)	99.0%	85.7%	74.9%	80.3%	81.3%

4 事業の実施状況

評価（5評価）	評価理由・委員会意見
A	ドラマロケ地として相模大野立体駐車場が使用され、クレジット欄に市営駐車場の名前が載るなど、市営駐車場の知名度アップに寄与した点は評価する。 昨年度から実施している「満空情報Webサービス」なども引き続き利用者の利便性向上に繋がるものとして評価した。また、目標値に対する達成度が100%以上125%未満となったことから、A評価とするもの。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし	-	-	

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
なし	-	-	

自主事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者・効果等	評価
カーシェアリング事業	通年	橋北第二を除く5施設に配置 (利用稼働回数1559回・総収入1,267,200円)	◎
飲料自動販売機事業	通年	橋北第一・橋北第二・相模原駅・相模大野立体に計15台を設置(総収入1,339,520円)	◎
シェアサイクリング事業	通年	提携予定会社側事情により開始に至らず	△
車椅子およびジャンプスタータ貸出サービス事業	通年	車椅子およびジャンプスタータを管理事務所に配備 (車椅子33件・ジャンプスタータ9件の貸出実績)	◎
傘のシェアリングサービス事業	通年	提携予定会社側事情により開始に至らず	△
タブレットを利用した翻訳・筆談サービス事業	通年	左記アプリをインストールしたタブレットを配備 (但し、利用実績は無かった)	△
駐車場空き情報のWebサイトでの提供事業	通年	2022年3月にサイト開設、2023年3月末日まで運用。	◎
ECコマース商品の受渡サービス事業	通年	アマゾン社の本件事業への参入を目指したが、その審査においてハブ設置場所として不適とされ、事業開始に至らず。	△
定期券自動更新機サービス導入事業	通年	窓口には拠らず、24時間定期券更新を可能とした。 全施設で稼働(全施設で6555件の利用実績)	◎
外販事業	通年	新型コロナウイルス感染症の流行下にあつては、思うような外販営業は困難であったが、相模原駅において新規に2件の回数券定期的購入先を開拓した。	◎
相模大野立体地下駐車施設活用事業	通年	相模原市より法規的に駐車場目的の利用にしか適合しない旨が伝えられたことから、従前の提案を撤回して代替に「駐車位置を指定した月極の駐車場事業」を提案したが、これも条例上に事業化が困難であった。	△
さがみはらフィルムコミッションとの連携事業	通年	相模大野立体駐車場が、huluが制作する人気作品「君と世界が終わる日に」の牢獄シーンのロケ地に選定され、撮影が行われた。	◎
交通安全への意識啓発事業	通年	市内警察署との連携により、啓発ポスターなどの掲出を行った。	○

5 利用者の満足度

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	長引くコロナ禍において、利用者満足度調査の実施方法については工夫が求められるところであるが、ポケットティッシュの配布と併せてアンケート調査を実施するといった工夫を行った点や、非対面での配付を行うなど、アンケート配付の手法も工夫した点は評価できる。 利用者満足度の目標値に対する達成度が110%以上であることから、S評価とするもの。

利用者満足度調査

調査手法/サンプル数	利用者へのアンケート調査を実施(ポケットティッシュ・筆記用具の手渡しによる配布又は駐車中の車両への配布、事前精算機・エレベータ内への配備。回収箱への自主投入による回収) 期間:令和4年11月22日~12月25日の間(6施設で延べ84日間実施) 回答数:1088(配布数:2,748)
目標値の基準	総合的な満足度の設問に対する「満足」と「どちらかといえば満足」の合計割合 (補足:令和元年度は、管理運営形態が令和2年度以降と異なるため、目標値は自転車駐車場込みでの設定、実績値は自動車駐車場のみで再算出したもの)

項目 (単位)	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
目標値 (%)	90.0	90.0	80.0	80.0	80.0
実績値 (%)	82.2	82.7	89.5	89.0	90.2
達成度 (%)	91.3%	91.8%	111.9%	111.3%	112.7%

その他の取組

取組事項	時期	取組内容
(なし)		

6 施設の経営状況

評価 (5評価)	評価理由・委員会意見
S	本体事業収支、自主事業収支ともに黒字であり、団体本体の経営状況に特段の問題はないため、健全な経営がなされていると言える。以上のことより、得点が20点となったことからS評価とするもの。

施設の収支概要

※直近3年間について記載

(千円)

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
収入 (a)	327,818	343,253	368,586
指定管理料	294,624	305,751	313,016
利用料金収入の5%相当額	32,247	36,416	36,100
その他の収入	947	1,086	19,470
支出 (b)	328,937	328,293	342,205
人件費	155,968	138,753	132,703
施設管理経費	141,593	157,946	177,657
本社管理経費	30,000	30,000	31,355
その他の支出	1,376	1,594	490
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)	-1,119	14,960	26,381
自主事業収入 (d)	3,749	2,825	2,777
自主事業支出 (e)	1,324	709	644
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)	2,425	2,116	2,133
全体収支 【(c)+(f)】	1,306	17,076	28,514
備考	※千円未満は切り捨て処理。		

団体の財務状況

団体本体の経営状況について特段の問題はない。

7 管理業務の履行状況

検査方法	市チェックリストに基づき、指定管理者へのヒアリング及び現地確認により検査を実施 (令和4年度分の報告書等を確認)
実施時期	令和4年12月9日

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 指定管理者の自己評価

2020年度から続いたCOVID19ウイルスへの感染拡大防止策は、今年度を通じて緩和方向となり、人的交流、経済活動の復旧には駐車需要にも回復傾向が見られたものの、行動様式の変化からか商業施設を付帯する施設では、利用台数に対して収入が伴わず客単価の低下が顕著であった。(買い物行動にて認証駐車サービス時間内の出庫が大半と化した)

対して、定期券需要はウイルス災禍前を上回るまでに回復した。定期利用が比較的多い相模原や小田急相模原では、人流抑制施策下においても定期の解約はせずに一時休止を希望する利用者が多かったため、定期券自動更新機の機能を活用して対応した。一時休止の機能はその後も定常サービスとして取り入れ、窓口での手続きを簡略化できた。利用しやすくきめ細かいサービスを提供したことも定期利用者の増加に貢献したものと考えている。

24時間の開場営業についても、開始初年度にて得た知見をもとに人員配置時間帯を窓口営業時間へと短縮したが、構成団体直営のコールセンターによる代替にて、特段のサービス低下無く運営され、想定を遥かに上回った電気料金の高騰下においてさえも、これらを想定していない時点での収入予算に対しての黒字運営を確保出来た(事業持続化補助金を除外しても950万円の収支)。従って、施設点検や清掃などの管理水準も(公募提案より)一切低下させていない。

9 所管課意見

指定管理期間の最終年ということで、非常に安定した運営が行われていたといえる。

前年度と比較すると施設利用の実績は若干増加している。利用料金は前年度より下がったが、これは翌年度から使用料制から利用料金制に変更するにあたり、提携店舗が事前に購入する回数駐車券について調整を行ったことによるものと承知している。収支に関しても、人員配置や運営体制の見直しにより、人件費を抑制しながら、サービス水準は維持した上で運営し、電気料金の高騰にも関わらず、本体事業収支を黒字化させ、利益の約6割、1,700万円以上を施設のLED化に還元していただいた。これは、指定管理者の優れた経営手腕によるものであったと認識している。

利用者満足度調査では目標に対する達成度が110%を超え、最高評価となるS評価となった。指定管理者で対応することができない施設の構造や駐車料金に関すること以外については、利用者満足度の向上を目指し、利用者の目線に立った質の高いサービスの提供に努めていただいたものと評価している。

施設運営に関しては、24時間営業の運用開始後、管理事務室の開所時間や施設内の通路の施設箇所等の変更があったが、コールセンターによる遠隔管理や機械警備等により、サービスや安全性を損なうことなく運営を継続していた。

以上のことから総合的に判断して、指定管理業務は良好に履行されていたと評価できる。

10 選考委員会意見

自動車駐車場の指定管理運営については概ね良好に履行されているといえる。

成果指標の達成度については、目標値の達成には至らなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響の要因が大きく影響していると考えられる。この数年間は生活様式の変化等が著しく、管理・運営が非常に難しい時期だったと思われるが、こうした状況にどう対応し、どのように状況に合わせて変化を行っていきけるかが、今後の運営にとっても重要である。引き続き、安心して施設を利用していただけるよう利用環境の改善を図るなど、今後も継続して利用しやすい施設運営に取り組む必要がある。

事業の実施状況については、自主事業のさがみはらフィルムコミッション連携事業として、相模大野立体駐車場がドラマのロケ地となったことで、知名度向上への貢献や、使用されていなかった地下スペースを有効活用するなど、効果的な施策となったことを評価する。また、外販事業により、回数券の購入先を新たに開拓するなど、既存の事業の拡充についても継続して実施している点が評価できる。

利用者の満足度については、過年度に引き続き、高い達成度を維持している。またアンケート調査の配付方法について、ポケットティッシュと併せての配布を行うなどの工夫によりサンプル数は、令和3年度と同様に高い水準を維持している。アンケート結果にもとづき、引き続き市民の意見に寄り添った対応を行う必要がある。

また、橋本駅北口第2自動車駐車場付近の二輪自動車駐車場の閉鎖に伴い、二輪自動車の定期利用車枠の増加の声が上がっていたが、機会を捉えて二輪自動車の車枠の台数を増加したことは、市民の利便性向上に寄与したものと考える。

施設の経営状況について、本体事業収支、自主事業収支ともに黒字であり、団体本体の経営状況に特段の問題はないため、健全な経営がなされていると言える。

管理業務の履行状況については、履行管理チェックシートを基に市が現地調査を実施した結果、いずれの検査項目についても適正に実施されていることが確認できた。施設への還元として積極的に推進しているLED化は、利用者からの要望も多く、的確にニーズを捉えた事業展開が行われているものと評価できる。

指定管理期間の最終年度ということもあり、非常に安定した運営ができていた点を評価する。他の指定管理業務等へここで得た知見などを活用し、利用者の満足度向上の取組み等に繋げていっていただきたい。

総合評価 (自動判定)

A

(75/100)

